

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2024年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		環境園芸学科		
科目名称	専攻演習 I					授業形態	演習		
科目コード	710093	単位数	2単位	配当学年	3	実務経験教員	○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	関西 剛康							ICT活 用	○
授業概要	<p>この授業では、造園学における造園計画やフィールドワークの知識と技術の基礎を学ぶ。そして、造園計画が必要とされている社会的課題について学び、その解決策について考える。さらに、造園計画を通じて各自の専門職業人としての専門性を磨いていくために、ワークショップ・グループワーキング・フィールドワークを実施する。</p> <p>教員は、技術士（総合技術監理部門、建設部門〔都市及び地方計画〕）や登録ランドスケープアーキテクト（RLA）等の有資格者であり、実務として造園コンサルタントの設計事務所で20年にわたって国内外の100件を超える都市公園や庭園プロジェクトに参画したキャリアを有する。また、教員は文化庁文化審議会専門委員、宮崎県美しい宮崎づくり推進有識者会議長、宮崎県景観まちづくりアドバイザー、宮崎市花のまちづくりコンクール審査委員長、宮崎グリーンインフラ研究会長などの職務経験も豊富である。授業では、実際に計画設計したランドスケープや先進事例を紹介しながら行う。</p>								
関連する科目	履修前に環境園芸概論、造園学概論、造園植栽論、敷地計画論、敷地計画論演習を、同時に都市緑地論、都市計画論演習を、履修後に専攻演習Ⅱ、専攻演習Ⅲ、卒業論文を履修すること。								
授業の進め方と方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的にアクティブラーニング方式を取り入れて実施する（学術・知識のインプット）。</li> <li>2. 授業前半は講義を行う（学術・知識のインプット）。</li> <li>3. 授業後半はグループ学習、ディスカッションや課題発表（問題解決学習、プレゼンテーション）等を行う（学術・知識の醸成とアウトプット）。</li> <li>4. 授業にはノートパソコンを持参して、ZOOMやSLACKを用いて、データや資料を共有しながら授業を行う。</li> <li>5. CAD、画像加工アプリ、統計処理ソフトを用いながら、授業を行う。</li> </ol>								
授業計画【第1回】	授業のガイダンス （専攻演習Ⅰの概要説明と心得について説明する）								
授業計画【第2回】	ランドスケープ・アーキテクチャの歴史的考察-1（世界編） （ランドスケープ・アーキテクチャの歴史的ならびに社会的背景について学ぶ）								
授業計画【第3回】	ランドスケープ・アーキテクチャの歴史的考察-2（日本編） （ランドスケープ・アーキテクチャの歴史的ならびに社会的背景について学ぶ）								
授業計画【第4回】	ランドスケープ・アーキテクチャを取り巻く社会背景 （ランドスケープ・アーキテクチャの歴史的ならびに社会的背景について学ぶ）								
授業計画【第5回】	フィールドワークの実践法-1（調査内容と着眼点） （フィールドワークによる調査手法や着眼点について学ぶ）								
授業計画【第6回】	フィールドワークの実践法-2（現地調査とその手法） （フィールドワークによる調査手法や着眼点について学ぶ）								
授業計画【第7回】	ランドスケープ・アーキテクチャ作品論-1（日本庭園編） （ランドスケープ領域における先行事例について学ぶ）								
授業計画【第8回】	ランドスケープ・アーキテクチャ作品論-2（エクステリア編） （ランドスケープ領域における先行事例について学ぶ）								
授業計画【第9回】	ランドスケープ・アーキテクチャ作品論-3（都市公園編） （ランドスケープ領域における先行事例について学ぶ）								
授業計画【第10回】	ランドスケープ・アーキテクチャ作品論-4（アーバンデザイン編） （ランドスケープ領域における先行事例について学ぶ）								
授業計画【第11回】	ランドスケープ・アーキテクチャ作品論-5（緑のネットワーク編） （ランドスケープ領域における先行事例について学ぶ）								

授業計画【第12回】	ランドスケープ・アーキテクチャ作品論-6（世界のランドスケープ編） （ランドスケープ領域における先行事例について学ぶ）
授業計画【第13回】	ランドスケープ・プランの実践-1（庭園編） （ランドスケープ・プランの実践について学ぶ）
授業計画【第14回】	ランドスケープ・プランの実践-2（ランドスケープ編） （ランドスケープ・プランの実践について学ぶ）
授業計画【第15回】	専攻演習Ⅰのまとめと今後 （ランドスケープ・プランについての全体像を把握する）
授業の到達目標	1. 造園における造園計画の知識と技術の基礎的内容を修得することを目的とする。 2. 口頭発表を通じてプレゼンテーション能力や、集団討論を通じてディスカッション能力を向上させ、総合的なコミュニケーション能力の向上を目的とする。
学位授与の方針（DP）との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	1. 授業で配布する学術論文や造園作品資料等を授業前に精読すること。 2. 演習授業であるため、事前に参考となる資料を準備すること。 3. 予習は1時間程度行うこと。
授業時間外学習【復習】	1. 授業後にさらに理解を深めるために学術論文や造園作品資料等を再度精読すること。 2. 復習は1時間程度行うこと。
課題に対するフィードバック	レポートは評価後、返却期間をもうけて返却ならびに解説する。
評価方法・基準	1. 研究課題に関するレポート（100点） 2. 授業への取り組みも評価（授業態度によってはマイナス評価も行う）
テキスト	テキストは使用しないが、その代わりに適宜プリント資料を配布する。
参考書	1. （公社）日本造園学会：ランドスケープ研究（学会誌） 2. （公社）日本造園学会：ランドスケープ研究作品集（学会誌）
備考	造園計画研究室（関西研）における研究領域の概要は以下の通りである。 1）まずは、SDGs（持続可能な開発目標）を基本に、自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある国土づくりを進める「グリーンインフラ」の視点に立ち、地域活性化や持続可能な都市経営を考えたランドスケープについて研究している。例えば、地域の課題解決型をテーマに、実際にフィールドワークによって現状の課題について調査分析を実施し、地域の方との協働で考察を行い、新たな社会資本やその体制をランドスケープの社会実装を推進。 2）また伝統的な日本庭園の研究を推進して、文化財庭園の修復や継承から持続可能な維持管理による文化財保護、その庭園の歴史的背景に関する史的研究などを行い、世界に発信する日本文化の深化を図っている。そして、その知識と専門技術を用いて、次世代型の日本庭園の構築を研究している。  ①近代ランドスケーププラン&デザインに関する実践研究とその活用（グリーンインフラ社会実装・造園計画） ②都市緑地環境の形成に関する調査研究とその活用（都市緑地形成・都市経営・まちづくり） ③日本庭園の成立背景に関する歴史原論研究とその活用（日本庭園史・庭園計画・歴史まちづくり）

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2024年度	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	環境園芸学科				
科目名称	卒業論文					授業形態	実験		
科目コード	710096	単位数	6単位	配当学年	4	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	前田 隆昭							ICT活 用	
授業概要	果樹園芸学分野についての研究テーマを各自で設定し、調査・研究をすすめていく。調査・研究していく過程で、植物の栽培管理を徹底させる。その上で、研究データを整理し、卒業論文としてまとめることを目的とする【汎用的技能の育成】。								
関連する科目	3年次後期から4年次にかけての専攻演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ								
授業の進め方 と方法	卒論をまとめるに当たり、計画を立て、研究を進めていく。その際に、専攻生各自に指導しながら、最終的に卒業論文をまとめさせる【汎用的技能の育成】。本授業は、一部プレゼンテーションを取り入れたアクティブラーニング形式とする。								
授業計画 【第1回】	第1回 研究テーマの打ち合わせ1		専攻生と卒業論文の研究テーマについて打ち合わせを行う。						
授業計画 【第2回】	第2回 研究テーマの打ち合わせ2		専攻生と卒業論文の研究テーマについて打ち合わせを行う。						
授業計画 【第3回】	第3回 研究テーマの打ち合わせ3		専攻生と卒業論文の研究テーマについて打ち合わせを行う。						
授業計画 【第4回】	第4回 研究テーマの打ち合わせ4		専攻生と卒業論文の研究テーマについて打ち合わせを行う。						
授業計画 【第5回】	第5回 研究テーマの決定		専攻生と研究テーマを決定する。						
授業計画 【第6回】	第6回 研究計画の立案1		研究テーマに沿った研究計画を立案する。						
授業計画 【第7回】	第7回 研究計画の立案2		研究テーマに沿った研究計画を立案する。						
授業計画 【第8回】	第8回 研究計画の立案3		研究テーマに沿った研究計画を立案する。						
授業計画 【第9回】	第9回 研究計画の立案4		研究テーマに沿った研究計画を立案する。						
授業計画 【第10回】	第10回 調査・研究1		随時、調査研究を行っていく。						
授業計画 【第11回】	第11回 調査・研究2		随時、調査研究を行っていく。						

授業計画 【第12回】	第12回 調査・研究3	随時、調査研究を行っていく。
授業計画 【第13回】	第13回 調査・研究4	随時、調査研究を行っていく。
授業計画 【第14回】	第14回 調査・研究5	随時、調査研究を行っていく。
授業計画 【第15回】	第15回 調査・研究6	随時、調査研究を行っていく。
授業計画 【第16回】	第16回 調査・研究7	随時、調査研究を行っていく。
授業計画 【第17回】	第17回 調査・研究8	随時、調査研究を行っていく。
授業計画 【第18回】	第18回 調査・研究9	随時、調査研究を行っていく。
授業計画 【第19回】	第19回 調査・研究10	随時、調査研究を行っていく。
授業計画 【第20回】	第20回 調査・研究11	随時、調査研究を行っていく。
授業計画 【第21回】	第21回 調査・研究12	随時、調査研究を行っていく。
授業計画 【第22回】	第22回 調査・研究13	随時、調査研究を行っていく。
授業計画 【第23回】	第23回 調査・研究14	随時、調査研究を行っていく。
授業計画 【第24回】	第24回 調査・研究15	随時、調査研究を行っていく。
授業計画 【第25回】	第25回 調査・研究16	随時、調査研究を行っていく。
授業計画 【第26回】	第26回 調査・研究17	随時、調査研究を行っていく。
授業計画 【第27回】	第27回 調査・研究18	随時、調査研究を行っていく。
授業計画 【第28回】	第28回 調査・研究19	随時、調査研究を行っていく。
授業計画 【第29回】	第29回 調査・研究20	随時、調査研究を行っていく。

授業計画 【第30回】	第30回 調査・研究21	随時、調査研究を行っていく。
授業計画 【第31回】	第31回 中間発表1	中間発表として、プレゼンを行う。
授業計画 【第32回】	第32回 中間発表2	中間発表として、プレゼンを行う。
授業計画 【第33回】	第33回 調査、研究およびデータのとりまとめ1	随時、調査・研究を行いながらデータを整理していく。
授業計画 【第34回】	第34回 調査、研究およびデータのとりまとめ2	随時、調査・研究を行いながらデータを整理していく。
授業計画 【第35回】	第35回 調査、研究およびデータのとりまとめ3	随時、調査・研究を行いながらデータを整理していく。
授業計画 【第36回】	第36回 調査、研究およびデータのとりまとめ4	随時、調査・研究を行いながらデータを整理していく。
授業計画 【第37回】	第37回 調査、研究およびデータのとりまとめ5	随時、調査・研究を行いながらデータを整理していく。
授業計画 【第38回】	第38回 調査、研究およびデータのとりまとめ6	随時、調査・研究を行いながらデータを整理していく。
授業計画 【第39回】	第39回 調査、研究およびデータのとりまとめ7	随時、調査・研究を行いながらデータを整理していく。
授業計画 【第40回】	第40回 調査、研究およびデータのとりまとめ8	随時、調査・研究を行いながらデータを整理していく。
授業計画 【第41回】	第41回 卒論作成1	卒業論文を作成していく。
授業計画 【第42回】	第42回 卒論作成2	卒業論文を作成していく。
授業計画 【第43回】	第43回 卒論作成3	卒業論文を作成していく。
授業計画 【第44回】	第44回 卒論作成4	卒業論文を作成していく。
授業計画 【第45回】	第45回 卒論作成5	卒業論文を作成していく。
授業計画 【第46回】	第46回 卒論作成6	卒業論文を作成していく。
授業計画 【第47回】	第47回 卒論作成7	卒業論文を作成していく。

授業計画 【第48回】	第48回 卒論作成8 卒業論文を作成していく。
授業計画 【第49回】	第49回 卒論作成9 卒業論文を作成していく。
授業計画 【第50回】	第50回 卒論作成10 卒業論文を作成していく。
授業計画 【第51回】	第51回 卒論作成11 卒業論文を作成していく。
授業計画 【第52回】	第52回 卒論作成12 卒業論文を作成していく。
授業計画 【第53回】	第53回 卒論作成13 卒業論文を作成していく。
授業計画 【第54回】	第54回 卒論作成14 卒業論文を作成していく。
授業計画 【第55回】	第55回 卒論発表1 各自卒業論文をプレゼンする。
授業計画 【第56回】	第56回 卒論発表2 各自卒業論文をプレゼンする。
授業計画 【第57回】	第57回 卒論発表3 各自卒業論文をプレゼンする。
授業計画 【第58回】	第58回 卒論発表4 各自卒業論文をプレゼンする。
授業計画 【第59回】	第59回 卒論発表5 各自卒業論文をプレゼンする。
授業計画 【第60回】	第60回 卒論発表6 各自卒業論文をプレゼンする。
授業の到達目標	卒論テーマを主体的に選定し、調査・研究を自ら行い、内容をプレゼンテーションする能力を身につける。【専門分野のスキルの獲得】 【汎用的技能の育成】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)
授業時間外学習【予習】	各自の卒論テーマに関連した専門書を読み、知識を深めておくこと。(約1時間)
授業時間外学習【復習】	各自の卒論テーマに関連した専門書を読み、知識を深めておくこと。(約1時間)
課題に対する フィードバック	卒論作成に当たり、随時指導を行う。

評価方法・基準	以下の項目に基づいて評価する。 1) 受講態度-30点 2) 発表内容-30点 3) 卒論内容-40点
テキスト	特になし
参考書	特になし
備考	

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2024年度	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	環境園芸学科				
科目名称	卒業論文				授業形態				
科目コード	710096	単位数	6単位	配当学年	4	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	廣瀬 大介							ICT活 用	
授業概要	<p>本科目は、受講生各自が与えられた研究テーマに沿って植物を育て、生育調査や各種成分分析等を行い、その結果を学術論文に準じた形にまとめ上げることを目的としている。 具体的な研究テーマについては、研究室配属後に説明する。</p>								
関連する科目	履修前に作物栽培学、作物学各論Ⅰ、作物学各論Ⅱのいずれか2科目を受講しておくのが望ましい。履修後に特に履修すべき科目はない。								
授業の進め方 と方法	教員との綿密な打ち合わせ後は、各自が自発的に責任をもって研究テーマに沿った栽培、各種分析および論文作成を行う（必要に応じて教員がアドバイスをを行う）。								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究テーマの決定</li> <li>2. 研究内容の打ち合わせ</li> <li>3. 研究に関する各種分析方法の教授</li> <li>4. 研究の中間発表</li> <li>5. 卒業論文の草稿</li> <li>6. 卒業論文のまとめ</li> </ol> <p>卒業論文を学術論文と同程度に仕上げていくことを学ぶ。 受講者各自によって1から6までの進み具合が異なるので各回ごとの計画は指定しない。</p>								
授業の到達目標	1つのプロジェクトを実行してまとめていく方法を学ぶ【汎用的能力の育成】【志向性の育成】。								
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)								
授業時間外学習【予習】	各自の卒業論文のテーマに沿った論文や著書を日頃から集め、内容を理解すること（必要な時間は、各自で異なるので指定はしない）。								
授業時間外学習【復習】	各自の卒業論文のテーマに沿った論文や著書を日頃から集め、内容を理解すること（必要な時間は、各自で異なるので指定はしない）。								
課題に対する フィードバック	提出された卒業論文に対して講評する。								
評価方法・基準	卒業論文に対する取り組み態度(40点)と論文の内容(論文が学術論文形式にどのくらい沿っているか) (60点)								
テキスト	使用しない。								
参考書	大学生のためのレポート・論文術、論文の教室 レポートから卒論まで								
備考									

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2024年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		環境園芸学科		
科目名称	卒業論文					授業形態	演習		
科目コード	710096	単位数	6単位	配当学年	4	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	中野 光議							ICT活 用	
授業概要	<p>研究計画に沿って野外調査や室内実験、統計解析を行い、最終的に卒業論文としてまとめます。卒業研究のテーマは、担当教員との相談の上で決定します。</p> <p>概ね以下の内容で進行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究テーマ・計画の作成</li> <li>2. 調査・実験</li> <li>3. データの解析</li> <li>4. 卒業論文の作成</li> <li>5. 研究成果の発表</li> </ol>								
関連する科目	水辺環境論、環境緑地論、環境調査及び再生論、ピオトープ論、環境緑地論実習、水辺環境論実習、専攻演習Ⅰの受講を終えていることが望ましい。同時期に専攻演習Ⅱ、専攻演習Ⅲを履修する必要がある。								
授業の進め方と方法	1年にわたって、野外や研究室で研究を進めます。特に、野外における環境や生物の調査、統計解析ソフトを使用した数理データサイエンス、IMRAD形式の文章の作成を重視して研究を進めてもらいます。ミーティングを毎週実施し、研究の進捗を履修学生全員と教員で共有し、必要な対応を行います。研究が上手くいかない時は、速やかに教員に報告・相談してください。								
授業計画【第1回】	研究テーマの決定 各自の興味関心に基づき、担当教員と相談の上で研究テーマを決定します。								
授業計画【第2回】	研究計画の作成 研究の目的、仮説、方法、期待される成果等についてまとめ、研究計画を作成します。								
授業計画【第3回】	研究の準備 野外調査や実験等の準備を行います。								
授業計画【第4回】	事前調査・実験の実施 事前に調査・実験を行い、計画の実現性等を検討します。								
授業計画【第5回】	調査 野外で生物の生息・分布や個体数、密度、行動等を調べます。必要に応じて、自然実験による要因の比較も行います。								
授業計画【第6回】	室内実験 実験室でマイクロコスムを使用して実験を行います。								
授業計画【第7回】	野外操作実験 野外やメソコスムで、注目する要因（環境条件等）を操作して生物への影響を調べます。								
授業計画【第8回】	データのまとめ・探索的図表作成 調査・実験の結果をMS-エクセル等でまとめ、探索的に図表を作成します。								
授業計画【第9回】	データ解析（1） 調査・実験で得られたデータを用いて、相関分析や回帰分析を行います。これによって、要因間の関係を検討します。								
授業計画【第10回】	データ解析（2） 調査・実験で得られたデータを用いて、一般化線形モデルや決定木分析等の高度な解析を行います。								
授業計画【第11回】	卒業論文の執筆（1） 研究の結果をIMRAD形式でまとめます。研究の内容を筋道立てて具体的に記述します。主張が客観的に伝わる文章になるように推敲します。								

授業計画 【第12回】	卒業論文の執筆（2） 先行文献を適切に引用し、テーマにそったオリジナルの議論を展開します。
授業計画 【第13回】	卒業論文の執筆（3） 論文の主張に沿った図表を掲載します。
授業計画 【第14回】	発表（1） パワーポイント等を使用して研究の内容や成果を発表します。聴衆から分かりやすい発表となるように工夫します。
授業計画 【第15回】	発表2（2） 他の学生の発表に対して建設的な議論を行います。
授業の到達目標	1. 各自の研究テーマについて、国内外の最先端の科学的知見を踏まえ、学術的に新規性のある卒業研究を完成させる。 2. 研究の内容や成果を、客観的に伝えられるようになる。
学位授与の方針 (DP)との関連	2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	適宜指示します。
授業時間外学習【復習】	適宜指示します。
課題に対する フィードバック	不明な点・疑問点については、日常的に助言や指導を行います。
評価方法・基準	卒業研究に取り組む姿勢、および卒業論文の完成度で評価します。
テキスト	なし
参考書	なし
備考	なし

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2024年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		環境園芸学科		
科目名称	卒業論文					授業形態	演習		
科目コード	710096	単位数	6単位	配当学年	4	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	岡島 直方							ICT活 用	○
授業概要	<p>専攻演習で論文やレポートの書き方の基礎を学んだり、見学会や施工練習を行ったりする会話の中で、卒業論文の内容のイメージを作っていく。本研究室では卒業制作を選ぶ学生が多かったが、その場合も制作内容の段階ごとに、論考を加えていくことが必要となる。専攻演習ⅠⅡⅢが卒業論文のプロセスとなる。最終プレゼンは学生各個人で行うことになるため、プレゼンまでの間の相談に応じたり、助言をおこなったりする。</p>								
関連する科目	<p>「造園学概論」に始まる造園専門科目群、「専攻演習Ⅰ」「専攻演習Ⅱ」「専攻演習Ⅲ」「卒業論文」が一連の授業体系を構成している。</p>								
授業の進め方と方法	<p>スケジュールに合わせて課題に取り組んでもらうなかで、卒論発表会に向けて準備をしていくので、ガイダンスにしたがってその時期に見合った課題を実施していく。学生の進み具合に合わせて、ディスカッションを行う。取り組みの順番や回数などは年度の現状を踏まえて変わる場合がある。</p>								
授業計画【第1回】	<p>論文の書き方と有用性 論文を書くことの意義や有効性について検討します。</p>								
授業計画【第2回】	<p>テキストの批評 教材となるテキストから、探求の糸口を探し出します。</p>								
授業計画【第3回】	<p>テキストの批評 教材となるテキストから、探求の糸口を探し出します。</p>								
授業計画【第4回】	<p>テキストの批評 教材となるテキストから、探求の糸口を探し出します。</p>								
授業計画【第5回】	<p>テキストの批評 教材となるテキストから、探求の糸口を探し出します。</p>								
授業計画【第6回】	<p>テキストの批評 教材となるテキストから、探求の糸口を探し出します。</p>								
授業計画【第7回】	<p>論文とその構成 論文の構成について学びます。</p>								
授業計画【第8回】	<p>論文とその構成2 論文の構成について学びます。</p>								
授業計画【第9回】	<p>テーマ設定、組み立て1 論文のテーマ設定について学びます。</p>								
授業計画【第10回】	<p>テーマ設定、組み立て2 論文のテーマ設定について学びます。</p>								
授業計画【第11回】	<p>各自の関心テーマ確認 各自の探求するテーマを検討します。</p>								

授業計画 【第12回】	注の付け方1 論文の注の付け方を学びます。
授業計画 【第13回】	注の付け方2 論文の注の付け方を学びます。
授業計画 【第14回】	注の付け方3 論文の注の付け方を学びます。
授業計画 【第15回】	実践的文章の検討など 論文の文章の書き方について学びます。
授業計画 【第16回】	実践的文章の検討など2 論文の文章の書き方について学びます。
授業計画 【第17回】	実践的文章の検討など3 論文の文章の書き方について学びます。
授業計画 【第18回】	前半のまとめ これまでのまとめを行います。
授業計画 【第19回】	実際の研究制作・論文の検討1 各自のテーマに対して具体的に指摘します。
授業計画 【第20回】	実際の研究制作・論文の検討2 各自のテーマに対して具体的に指摘します。
授業計画 【第21回】	実際の研究制作・論文の検討3 各自のテーマに対して具体的に指摘します。
授業計画 【第22回】	実際の研究制作・論文の検討4 各自のテーマに対して具体的に指摘します。
授業計画 【第23回】	実際の研究制作・論文の検討5 各自のテーマに対して具体的に指摘します。
授業計画 【第24回】	実際の研究制作・論文の検討6 各自のテーマに対して具体的に指摘します。
授業計画 【第25回】	実際の研究制作・論文の検討7 各自のテーマに対して具体的に指摘します。
授業計画 【第26回】	実際の研究制作・論文の検討8 各自のテーマに対して具体的に指摘します。
授業計画 【第27回】	各自が課題に取り組む時間と個別指導1 個別の課題に対して指導します。
授業計画 【第28回】	各自が課題に取り組む時間と個別指導2 個別の課題に対して指導します。
授業計画 【第29回】	各自が課題に取り組む時間と個別指導3 個別の課題に対して指導します。

授業計画 【第30回】	各自が課題に取り組む時間と個別指導4 個別の課題に対して指導します。
授業計画 【第31回】	
授業計画 【第32回】	
授業計画 【第33回】	
授業計画 【第34回】	
授業計画 【第35回】	
授業計画 【第36回】	
授業計画 【第37回】	
授業計画 【第38回】	
授業計画 【第39回】	
授業計画 【第40回】	
授業計画 【第41回】	
授業計画 【第42回】	
授業計画 【第43回】	
授業計画 【第44回】	
授業計画 【第45回】	
授業計画 【第46回】	
授業計画 【第47回】	

授業計画 【第48回】	
授業計画 【第49回】	
授業計画 【第50回】	
授業計画 【第51回】	
授業計画 【第52回】	
授業計画 【第53回】	
授業計画 【第54回】	
授業計画 【第55回】	
授業計画 【第56回】	
授業計画 【第57回】	
授業計画 【第58回】	
授業計画 【第59回】	
授業計画 【第60回】	
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 卒論テーマについて、関連する既往研究論文を抽出する能力を身につける。【課題発見・分析・解決力】</li> <li>2. 研究の目的を達成するための的確な研究方法を見出す能力を身につける。【実践力】</li> <li>3. 分析、考察を遂行し、文書化し、プレゼンテーションを行う力を身につける。 【専門分野のスキル】 【プレゼンテーション力】</li> </ol>
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)
授業時間外学習【予習】	資料を読んで検討する。(30分程度)
授業時間外学習【復習】	当日の内容をまとめる。(30分程度)
課題に対する フィードバック	討論や打ち合わせの時に、各自の取り組みに対するコメントを行います。論文の訂正を指示する。

評価方法・基準	レポート(30点) 成果物(70点)
テキスト	
参考書	「建築プレゼンの掟」, 高橋正明, 彰国社, 2008 「論文はデザインだ!」, 渡邊研司, 彰国社, 2008 論文に対する心構えが書かれています。
備考	できるだけ学生の希望に添えるテーマにできるよう調整を行う。

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2024年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		環境園芸学科		
科目名称	卒業論文					授業形態			
科目コード	710096	単位数	6単位	配当学年	4	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	日高 英二							ICT活 用	○
授業概要	<p>緑化関連の講義で習得した知識を基に、問題点を抽出し、問題解決のための研究に取り組む。興味関心のある研究テーマを決め、関連論文の収集・読解を行い、研究計画を検討する。調査対象の調査を行い、得られたデータを分析するとともに検討を行う。中間検討の結果を基に補足調査をし、研究内容をより深めたものにする。それらの結果を論文形式にまとめ、その成果を他者が理解できるようなものに仕上げる。</p>								
関連する科目									
授業の進め方 と方法	<p>定めた研究テーマに従ってデータの収集・分析を行う。得られたデータは、他者へ結果が理解できるような図表にして、プレゼンテーション資料とする。それらをまとめて卒業論文として仕上げる。得られた結果が解りやすい文章の作成能力を訓練する。</p>								
授業計画 【第1回】	卒業論文のテーマ設定								
授業計画 【第2回】	関連論文の収集と読解								
授業計画 【第3回】	研究計画検討								
授業計画 【第4回】	対象地調査								
授業計画 【第5回】	調査実施								
授業計画 【第6回】	データ収集								
授業計画 【第7回】	データ分析								
授業計画 【第8回】	中間検討会								
授業計画 【第9回】	調査継続・深化								
授業計画 【第10回】	図表作成								
授業計画 【第11回】	結果整理								

授業計画【第12回】	論文発表要旨作成
授業計画【第13回】	プレゼンテーション資料作成
授業計画【第14回】	卒業論文発表会
授業計画【第15回】	卒業論文仕上げ
授業の到達目標	卒業研究をまとめることにより専門教育の集大成とする。
学位授与の方針(DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	論文テーマに近い論文等を熟読し、文章作成能力を上げる。(週30分程度)
授業時間外学習【復習】	図表作成・プレゼンテーションに必要なパソコンソフトの操作法を習得する。(週30分程度)
課題に対するフィードバック	卒業論文の概要を公表し、評価を得る。
評価方法・基準	卒業論文100点(発表会のプレゼンテーションを含む)
テキスト	
参考書	
備考	専攻演習で読解した関連文献

# Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2024年度	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	環境園芸学科				
科目名称	卒業論文				授業形態	講義			
科目コード	710096	単位数	6単位	配当学年	4	実務経験教員	○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	牧田 直子							ICT活 用	○
授業概要	<p>自己の探求心を生かしたテーマを選択し、卒論を作成し大学4年間の集大成とする。          卒業論文のテーマを確定し、研究結果の仮定を抽出、研究方法の妥当性を立証する。          既往研究論文の収集・読解、整理、と調査等から得られたデータを分析を行い、それらをまとめて中間検討を行う。          さらに継続して研究を深め、卒論発表会に臨み、充実した内容の卒論を完成させる。</p>								
関連する科目									
授業の進め方 と方法	個別指導、各回で指摘されたものを修正して翌日にチェックを受ける。チェックと修正を繰り返す。								
授業計画 【第1回】	1. ガイダンス 研究テーマについて検討する。								
授業計画 【第2回】	2. 卒論のテーマと概要 卒論のレジюмеと仮目次案を作成します。								
授業計画 【第3回】	3. 先行研究の確認 既往研究を整理する								
授業計画 【第4回】	4. 参考、引用文献一覧作成 資料を整理する。どの部分を使用するのかりストを作成する。								
授業計画 【第5回】	5. アウトラインの作成 研究の要点を整理してアウトラインを作成。								
授業計画 【第6回】	6. 研究のチェック 研究の独創性、社会性などをチェックする。								
授業計画 【第7回】	7. 目次の作成 卒論の目次を仮に作成する								
授業計画 【第8回】	8. タイトル、研究の背景、目的 研究の背景と目的を文章化して卒論タイトルを検討する								
授業計画 【第9回】	9. 「研究方法」の検討 研究の目的にあった研究方法なのかを検討する								
授業計画 【第10回】	10. 研究方法の決定 研究方法を決め、スケジュールを作成する								
授業計画 【第11回】	11. 研究開始：調査準備 アンケート調査、現地調査、インターネット調査などの準備								
授業計画 【第12回】	12. 予備調査 11で作成したものが正しく機能するか、正しいデータが得られるか、研究室などで予備調査として行ってみる。								
授業計画 【第13回】	13. 本調査 調査票を作成し実施する								
授業計画 【第14回】	14. 文献調査 エビデンスとなる文献を収集する								
授業計画 【第15回】	15. データ分析① 得られた調査データの入力を行う								
授業計画 【第16回】	16. データ分析② 得られた調査データの分析を行う（単純集計）								
授業計画 【第17回】	17. データ分析② 得られた調査データの分析を行う（クロス集計）								
授業計画 【第18回】	18. データ分析③ 得られた調査データの分析結果表やグラフにまとめる								
授業計画 【第19回】	19. データ分析④ 得られた調査データの分析結果表やグラフにまとめたものから考察を行う								
授業計画 【第20回】	20. データ分析⑤ 得られた調査データの分析結果表やグラフにまとめたものから総合考察を行う								
授業計画 【第21回】	21. 本文作成① 背景と目的を記述する、添削指導を行う。								

授業計画【第22回】	22. 本文作成② 研究方法を記述する。添削指導を行う。
授業計画【第23回】	23. 本文作成③ 調査結果を記述する。添削指導を行う。
授業計画【第24回】	24. 本文作成④ 考察を記述する。添削指導を行う。
授業計画【第25回】	25. 本文作成⑤ 総合考察、まとめを記述する。添削指導を行う。
授業計画【第26回】	26. 本文作成⑥ 参考文献を記述し確認する。添削指導を行う。
授業計画【第27回】	27. 本文作成⑦ 研究の背景と目的を再度確認する。添削指導を行う。
授業計画【第28回】	28. 本文作成⑧ 目次を作成しタイトルを決める。添削指導を行う。
授業計画【第29回】	29. 要旨の作成 要旨を作成する。添削指導を行う。
授業計画【第30回】	30. 卒論完成 プレゼンテーション資料を作成、要旨、本文完成。提出。
授業の到達目標	卒論テーマについて、関連する既往研究論文を抽出し、研究の目的を達成するための確な研究手法を行い、分析、考察を行い、文書化する。プレゼンテーションを行う 【専門分野のスキル】【課題発見・分析・解決力】【プレゼンテーション力】【社会的責任・倫理観】
学位授与の方針(DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	論文を執筆(目安時間4時間以上)
授業時間外学習【復習】	添削内容の確認、論文を執筆(目安時間4時間以上)
課題に対するフィードバック	
評価方法・基準	卒論研究への取り組みと研鑽、研究の組み立て、論理的思考、要旨の整理、論文の仕上がり、今後の展望を含めた論究について評価する(全体で100%)。
テキスト	
参考書	
備考	

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2024年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		環境園芸学科		
科目名称	卒業論文					授業形態	演習		
科目コード	710096	単位数	6単位	配当学年	4	実務経験教員	○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	平岡 直樹							ICT活 用	○
授業概要	<p>卒業論文は、大学の4年間で学んだことの集大成と位置づけられる。そして研究者として要求される知識・技能・計画性・情報収集能力・計算能力を主体的に運用、実践し、ひとつの成果として完成させることを目的とする。</p> <p>地域や景観に関連するテーマを各自が選び、これまで学んだ知識や技術を駆使してひとつの成果をまとめあげる。卒業論文執筆に必要な認識力や表現力ならびにプレゼンテーション能力を完成させることが期待される。</p>								
関連する科目	造園学概論に始まる造園専門科目群、専攻演習Ⅰ、専攻演習Ⅱ、専攻演習Ⅲ、卒業論文が一連の授業体系を構成している。								
授業の進め方 と方法	<p>専攻演習Ⅰ、専攻演習Ⅱ、専攻演習Ⅲで学んだ研究や論文に関する知識や技術を基に、自らが選んだテーマについて、課題を設定し、調査や分析を進める。最初は、テーマに沿った全体の構成を考える。ある程度の調査や整理が終了した10月頃に中間発表を行う。最終的に論文にまとめた後に、概要集を作成し、卒論発表会に臨む。毎回のテーマに沿ってまとめてきた課題を報告し、意見交換をするなどアクティブラーニング型の授業を行う。</p>								
授業計画 【第1回】	ガイダンス 全体計画の説明								
授業計画 【第2回】	卒業論文とは 科学論文の一つであることの紹介								
授業計画 【第3回】	卒業論文とは いくつかの事例を参照								
授業計画 【第4回】	卒業論文のテーマ選定 テーマの決め方と絞り込みについての注意点の説明								
授業計画 【第5回】	目的と意義の設定 いくつかの事例を提示と演習								
授業計画 【第6回】	既往研究のまとめ方 いくつかの事例を提示と演習								
授業計画 【第7回】	調査対象地の説明方法 いくつかの事例を提示と演習								
授業計画 【第8回】	調査方法の設定 いくつかの事例を提示と演習								
授業計画 【第9回】	調査の実践 いくつかの事例を提示と演習								
授業計画 【第10回】	調査の実践 いくつかの事例を提示と演習								
授業計画 【第11回】	調査手法の検証 いくつかの事例を提示と演習								
授業計画 【第12回】	調査の実践 いくつかの事例を提示と演習								
授業計画 【第13回】	調査の実践 いくつかの事例を提示と演習								
授業計画 【第14回】	分析方法の選定 いくつかの事例を提示と演習								
授業計画 【第15回】	分析の実践 いくつかの事例を提示と演習								
授業計画 【第16回】	分析の実践 いくつかの事例を提示と演習								
授業計画 【第17回】	分析手法の検証 いくつかの事例を提示と演習								
授業計画 【第18回】	分析の実践 いくつかの事例を提示と演習								
授業計画 【第19回】	分析の実践 いくつかの事例を提示と演習								
授業計画 【第20回】	学会参加 支部大会などへの参加								
授業計画 【第21回】	学会参加 支部大会などへの参加								

授業計画【第22回】	学会参加 支部大会などへの参加
授業計画【第23回】	結果の記述方法 いくつかの事例を提示と演習
授業計画【第24回】	結論の記述方法 いくつかの事例を提示と演習
授業計画【第25回】	参考文献 まとめ方の説明と演習
授業計画【第26回】	プレゼンテーション技術 図の作成と写真の挿入
授業計画【第27回】	プレゼンテーション技術 表、フローチャート作成
授業計画【第28回】	プレゼンテーション技術 パワーポイント作成
授業計画【第29回】	プレゼンテーション練習 パワーポイント表現
授業計画【第30回】	プレゼンテーション練習 口頭発表練習
授業の到達目標	卒業論文のテーマを主体的に選定し、課題設定、調査方法の検討、調査、分析、まとめを自ら行い、成果を他者に伝えるプレゼンテーション能力を身につける。【課題発見・分析・解決力】【プレゼンテーション力】【社会的責任・倫理観】【コミュニケーション力】【職人力】
学位授与の方針(DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	第1回目の授業で示す参考図書など文章の書き方や卒業論文の執筆に関する資料を授業前に読んでおくこと。卒業論文に関しては、ゼミ報告で表現し議論する内容は氷山の一角である。その背景には何倍もの時間と手間をかけた作業や考察が存在する。少なくともゼミ報告の準備に4時間程度は不可欠である。(平均3時間)
授業時間外学習【復習】	ゼミ報告等で受けた指摘について、確認をしておくこと。(平均0.5時間)
課題に対するフィードバック	随時完成物を提出する。必要に応じてコメントや書き込みを行い返却する。
評価方法・基準	完成した卒業論文と中間発表会、最終発表会の内容により評価する。
テキスト	配布する資料及び紹介又は指示する書籍
参考書	論文の書き方に関する書籍を必要に応じて紹介または提示する。主なものを下記に挙げる。 白井 利明、高橋 一郎、よくわかる卒論の書き方、ミネルヴァ書房、2008 吉田健生、大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方、ナカニシヤ出版、2004
備考	

# Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2024年度	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	環境園芸学科				
科目名称	卒業論文				授業形態	演習			
科目コード	710096	単位数	6単位	配当学年	4	実務経験教員	○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	関西 剛康							ICT活 用	
授業概要	<p>都市緑地・都市公園・庭園作品を含むランドスケープ全般を対象とし、造園学の見地から持続可能な造園計画手法や維持管理運営等について学び、研究する。具体的には、卒業論文における研究の方向性についての議論を行い、論文テーマを決定し、具体的な調査研究から研究成果を纏め上げるための指導を行う。</p> <p>教員は、技術士（総合技術監理部門、建設部門〔都市及び地方計画〕）や登録ランドスケープアーキテクト（RLA）等の有資格者であり、実務として造園コンサルタントの設計事務所で20年にわたって国内外の100件を超える都市公園や庭園プロジェクトに参画したキャリアを有する。また、教員は文化庁文化審議会専門委員、宮崎県美しい宮崎づくり推進有識者会議長、宮崎県景観まちづくりアドバイザー、宮崎市花のまちづくりコンクール審査委員長、宮崎グリーンインフラ研究会長などの職務経験も豊富である。授業では、実際に計画設計したランドスケープや先進事例を紹介しながら行う。</p>								
関連する科目	履修前に環境園芸概論、造園学概論、造園植栽論、敷地計画論、都市緑地論、専攻演習Ⅰ・Ⅱを、同時に専攻演習Ⅲを履修すること。								
授業の進め方と方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的にアクティブラーニング方式を取り入れて実施する（学術・知識のインプット）。</li> <li>2. 授業前半は講義を行う（学術・知識のインプット）。</li> <li>3. 授業後半はグループ学習、ディスカッションや課題発表（問題解決学習、プレゼンテーション）等を行う（学術・知識の醸成とアウトプット）。</li> <li>4. 授業にはノートパソコンを持参して、ZOOMやSLACKを用いて、データや資料を共有しながら授業を行う。</li> <li>5. CAD、画像加工アプリ、統計処理ソフトなどを用いながら、授業を行う。</li> </ol>								
授業計画【第1回】	卒業論文の概要説明と心得（授業のガイダンスと心得について授業を行う）								
授業計画【第2回】	卒業論文テーマの検討を行う（卒業論文テーマについて考える）								
授業計画【第3回】	卒業論文テーマの設定（卒業論文テーマについて考える）								
授業計画【第4回】	研究計画の立案を行う（研究計画と手法について考える）								
授業計画【第5回】	研究計画の精査と修正（研究計画と手法について考える）								
授業計画【第6回】	先行研究の調査項目（先行研究の把握を行う）								
授業計画【第7回】	先行研究の把握（先行研究の把握を行う）								
授業計画【第8回】	実地調査（フィールドワーク）計画の立案（実地調査の結果を纏める）								
授業計画【第9回】	実地調査（フィールドワーク）の手法（実地調査の結果を纏める）								
授業計画【第10回】	実地調査（フィールドワーク）の精度（実地調査の結果を纏める）								
授業計画【第11回】	実地調査（フィールドワーク）の結果の分析（実地調査の結果を纏める）								

授業計画 【第12回】	進捗の確認と研究計画の調整（調査研究内容の精査や修正を行う）
授業計画 【第13回】	調査結果・計画立案の中間まとめ（中間発表についての纏めを行う）
授業計画 【第14回】	中間発表資料の作成（中間発表についての纏めを行う）
授業計画 【第15回】	中間発表とその講評（中間発表についての纏めを行う）
授業計画 【第16回】	研究論文の執筆に関する基本的事項（研究論文の執筆について指導を行う）
授業計画 【第17回】	先行研究の纏め（研究論文の執筆について指導を行う）
授業計画 【第18回】	調査結果のデータ抽出（研究論文の執筆について指導を行う）
授業計画 【第19回】	調査結果のデータ分析（研究論文の執筆について指導を行う）
授業計画 【第20回】	各章の考察（研究論文の執筆について指導を行う）
授業計画 【第21回】	総合考察（研究論文の執筆について指導を行う）
授業計画 【第22回】	全体の纏め（研究論文の執筆について指導を行う）
授業計画 【第23回】	全体の精度の向上（研究論文の執筆について指導を行う）
授業計画 【第24回】	論文の要約（研究論文の執筆について指導を行う）
授業計画 【第25回】	プレゼンテーション資料の作成（口頭発表について指導を行う）
授業計画 【第26回】	プレゼンテーション資料の修正（口頭発表について指導を行う）
授業計画 【第27回】	口頭発表の指導（口頭発表について指導を行う）
授業計画 【第28回】	口頭発表のまとめ（口頭発表について指導を行う）
授業計画 【第29回】	卒業論文の総仕上げと確認（卒業論文の纏めについて指導を行う）

授業計画 【第30回】	卒業論文の総括・講評（卒業論文の纏めについて指導を行う）
授業の到達目標	1. 基本的にアクティブラーニング方式を取り入れて実施する【学術・知識のインプット】 2. 授業前半は講義を行う【学術・知識のインプット】 3. 授業後半はグループ学習、ディスカッションや課題発表（問題解決学習、プレゼンテーション）等を行う【学術・知識の醸成とアウトプット】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	1. 授業で配布する学術論文や造園作品資料等を授業前に精読すること。 2. 演習授業であるため、事前に参考となる資料を準備すること。 3. 予習は1時間程度行うこと。
授業時間外学習【復習】	1. 授業後にさらに理解を深めるために学術論文や造園作品資料等を再度精読すること。 2. 復習は1時間程度行うこと。
課題に対する フィードバック	レポートは評価後、返却期間をもうけて返却ならびに解説する。
評価方法・基準	1. 研究課題に関するレポート（100点） 2. 授業への取り組みも評価（授業態度によってはマイナス評価も行う）
テキスト	テキストは使用しないが、その代わりに適宜プリント資料を配布する。
参考書	1. (公社)日本造園学会：ランドスケープ研究（学会誌） 2. (公社)日本造園学会：ランドスケープ研究作品集（学会誌）
備考	造園計画研究室（関西研）における研究領域の概要は以下の通りである。 1) まずは、SDGs（持続可能な開発目標）を基本に、自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある国土づくりを進める「グリーンインフラ」の視点に立ち、地域活性化や持続可能な都市経営を考えたランドスケープについて研究している。例えば、地域の課題解決型をテーマに、実際にフィールドワークによって現状の課題について調査分析を実施し、地域の方との協働で考察を行い、新たな社会資本やその体制をランドスケープの社会実装を推進。 2) また伝統的な日本庭園の研究を推進して、文化財庭園の修復や継承から持続可能な維持管理による文化財保護、その庭園の歴史的背景に関する史的的研究などを行い、世界に発信する日本文化の深化を図っている。そして、その知識と専門技術を用いて、次世代型の日本庭園の構築を研究している。  ①近代ランドスケーププラン&デザインに関する実践研究とその活用（グリーンインフラ社会実装・造園計画） ②都市緑地環境の形成に関する調査研究とその活用（都市緑地形成・都市経営・まちづくり） ③日本庭園の成立背景に関する歴史原論研究とその活用（日本庭園史・庭園計画・歴史まちづくり）

# Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2024年度	開講キャンパス	開講キャンパス	都城キャンパス	都城キャンパス	開設学科	環境園芸学科	
科目名称	卒業論文					授業形態	演習	
科目コード	710096	単位数	6単位	配当学年	4	実務経験教員	○	
担当教員名	林 典生						ICT活用	○
授業概要	この授業では、4年間の総仕上げとして、社会園芸分野に関する様々なテーマを対象に調査研究を進め、研究結果を論理的にまとめ、その成果を卒業論文に仕上げることを目指す。 年次までに習得した教養・専門科目全般の知識をもとに、園芸福祉分野に関連する情報を調べるとともに、教員の指導の下で調査研究を進めます。定期的に研究の進捗状況の報告と、その後の研究計画などを話し合いながら研究を進め、その成果を卒業論文に仕上げる。							
関連する科目	全ての教養・専門科目全般になりますが、特に専攻演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲと造園学分野の選択必修科目は履修すること。							
授業の進め方と方法	この授業の進め方は、社会園芸分野に関連する様々な課題等を指導教員との話し合いで、研究テーマを決定し、関連する過去の学術論文、専門書等から情報を得るとともに、教員の指導の下で調査等の研究を進める。定期的に研究の進捗状況の報告と、その後の研究計画などを話し合いながら研究を進め、その成果を卒業論文として提出する。また、卒業論文中間発表会や卒業論文発表会でプレゼンテーションを実施する。 課題等の提出及びフィードバックは、ユニパのクラスプロファイル上で行う。							
授業計画【第1回】	卒業論文の概要説明と心得（その1） 授業のガイダンスを行う。							
授業計画【第2回】	卒業論文の概要説明と心得（その2） 卒業論文作成にあたり気を付けること等の心得について授業を行う。							
授業計画【第3回】	卒業論文テーマの検討（その1） 受講生自身が興味のある卒業論文テーマについて検討を行う。							
授業計画【第4回】	卒業論文テーマの検討（その2） 受講生自身が興味のある卒業論文テーマについて検討を行う。							
授業計画【第5回】	卒業論文テーマの設定（その1） 次回以後の研究計画を立案・実施するにあたり、検討した卒業論文テーマに詳細に設定する。							
授業計画【第6回】	卒業論文テーマの設定（その2） 次回以後の研究計画を立案・実施するにあたり、検討した卒業論文テーマに詳細に設定する。							
授業計画【第7回】	研究計画の立案（その1） 研究テーマに沿って具体的な研究計画を立案する。							
授業計画【第8回】	研究計画の立案（その2） 研究テーマに沿って具体的な研究計画を立案する。							
授業計画【第9回】	研究計画の精査と修正（その1） 先行研究の把握・整理及び具体的な調査・分析等の具体的な研究計画と手法について考える。							
授業計画【第10回】	研究計画の精査と修正（その2） 先行研究の把握・整理及び具体的な調査・分析等の具体的な研究計画と手法について考える。							
授業計画【第11回】	先行研究の調査（その1） 研究テーマに関連する先行研究に関する文献や資料に関する調査を行う。							
授業計画【第12回】	先行研究の調査（その2） 研究テーマに関連する先行研究に関する文献や資料に関する調査を行う。							
授業計画【第13回】	先行研究の把握（その1） 調査した文献や資料に基づき、先行研究の把握を行う。							
授業計画【第14回】	先行研究の把握（その2） 調査した文献や資料に基づき、先行研究の把握を行う。							
授業計画【第15回】	調査計画の立案（その1） 把握した先行研究を踏まえて、具体的な調査計画の内容を立案する。							
授業計画【第16回】	調査計画の立案（その2） 把握した先行研究を踏まえて、具体的な調査計画の内容を立案する。							
授業計画【第17回】	調査手法の確認（その1） 検討した調査内容に基づき、具体的な調査手法を確認する。							
授業計画【第18回】	調査手法の確認（その2） 検討した調査内容に基づき、具体的な調査手法を確認する。							
授業計画【第19回】	調査実施（その1） 検討した調査内容・手法に基づき調査を実施する。							
授業計画【第20回】	調査実施（その2） 検討した調査内容・手法に基づき調査を実施する。							
授業計画【第21回】	調査結果の分析（その1） 実施した調査の結果を整理・分析を行う。							

授業計画 【第22回】	調査結果の分析（その2） 実施した調査の結果を整理・分析を行う。
授業計画 【第23回】	進捗の確認 進捗状況を確認を行う。
授業計画 【第24回】	研究計画の調整 調査研究内容の精査や修正を行う。
授業計画 【第25回】	調査結果・計画立案の中間まとめ（その1） 調査結果を報告を行う。
授業計画 【第26回】	調査結果・計画立案の中間まとめ（その2） 報告した調査結果に基づき、計画立案の修正も含めまとめる。
授業計画 【第27回】	中間発表資料の作成 中間発表資料を作成する。
授業計画 【第28回】	中間発表資料の確認・修正 作成した中間発表資料の確認を行い、修正を行う。
授業計画 【第29回】	中間発表とその講評（その1） 中間発表を行い、意見交換の結果を反映させて今後の調査に活用する。
授業計画 【第30回】	中間発表とその講評（その2） 中間発表を行い、意見交換の結果を反映させて今後の調査に活用する。
授業計画 【第31回】	研究論文の執筆に関する基本的事項の確認（その1） 今後の調査等の計画を踏まえながら、研究論文執筆にあたり基本的事項を確認する。
授業計画 【第32回】	研究論文の執筆に関する基本的事項の確認（その2） 今後の調査等の計画を踏まえながら、研究論文執筆にあたり基本的事項を確認する。
授業計画 【第33回】	先行研究の整理（その1） 調査結果を踏まえて、関連する先行研究を再度調査し、整理する。
授業計画 【第34回】	先行研究の整理（その2） 調査結果を踏まえて、関連する先行研究を再度調査し、整理する。
授業計画 【第35回】	調査結果のデータ抽出（その1） 再度調査すべき内容の検討も含め、調査結果のデータの抽出を行う。
授業計画 【第36回】	調査結果のデータ抽出（その2） 再度調査すべき内容の検討も含め、調査結果のデータの抽出を行う。
授業計画 【第37回】	調査結果のデータ分析（再調査も含む）（その1） 再度調査する場合、調査を行うとともに、調査結果データを分析する。
授業計画 【第38回】	調査結果のデータ分析（再調査も含む）（その2） 再度調査する場合、調査を行うとともに、調査結果データを分析する。
授業計画 【第39回】	各章の考察（その1） 整理した先行研究および分析した調査結果を踏まえ、各章の考察を行う。
授業計画 【第40回】	各章の考察（その2） 整理した先行研究および分析した調査結果を踏まえ、各章の考察を行
授業計画 【第41回】	総合考察（その1） 各章の考察結果を踏まえ、総合考察を行う。
授業計画 【第42回】	総合考察（その2） 各章の考察結果を踏まえ、総合考察を行う。
授業計画 【第43回】	全体まとめ（その1） 各章の考察や総合考察の結果を踏まえ、卒業論文全体まとめを行う。
授業計画 【第44回】	全体まとめ（その2） 各章の考察や総合考察の結果を踏まえ、卒業論文全体まとめを行う。
授業計画 【第45回】	全体の精度の向上（その1） 全体まとめを行った後に、各章の考察や総合考察の結果も踏まえて、論理展開や文言・図表等の卒業論文内容の整合性を確認して、精度向上を行う。
授業計画 【第46回】	全体の精度の向上（その2） 全体まとめを行った後に、各章の考察や総合考察の結果も踏まえて、論理展開や文言・図表等の卒業論文内容の整合性を確認して、精度向上を行う。
授業計画 【第47回】	卒業論文概要集の作成（その1） 卒業論文の内容を踏まえ、卒業論文概要集の執筆について指導を行う。
授業計画 【第48回】	卒業論文概要集の作成（その2） 卒業論文の内容を踏まえ、卒業論文概要集の執筆について指導を行う。
授業計画 【第49回】	プレゼンテーション資料の作成（その1） 執筆した論文に基づき、プレゼンテーション資料作成を行う。
授業計画 【第50回】	プレゼンテーション資料の作成（その2） 執筆した論文に基づき、プレゼンテーション資料作成の進捗状況の報告を行う。
授業計画 【第51回】	プレゼンテーション資料の修正 作成したプレゼンテーション資料について修正を行う。

授業計画 【第52回】	プレゼンテーション資料の修正確認 修正したプレゼンテーション資料について修正できているかどうか確認を行う。
授業計画 【第53回】	口頭発表の指導（第1回目） 修正したプレゼンテーションに基づき口頭発表の指導を行う
授業計画 【第54回】	口頭発表の指導（第2回目） 修正したプレゼンテーションに基づき口頭発表の指導を行う
授業計画 【第55回】	口頭発表のまとめ（1回目） 口頭発表について指導を行い、口頭発表の準備を行う
授業計画 【第56回】	口頭発表のまとめ（2回目） 口頭発表について指導を行い、口頭発表の準備を行う
授業計画 【第57回】	卒業論文の総仕上げと確認（前半） 口頭発表を行い、意見交換結果を確認する。
授業計画 【第58回】	卒業論文の総仕上げと確認（後半） 確認した口頭発表の意見交換結果を、卒業論文の総仕上げを行う。
授業計画 【第59回】	卒業論文の確認 総仕上げした卒業論文の提出の上、確認を行う。
授業計画 【第60回】	卒業論文の総括・講評 提出した卒業論文について総括・講評を行う。
授業の到達目標	様々なテーマを解決する調査研究を進める過程を通して、「研究課題の探索」、「調査研究方法」、「結果のまとめ方」、「発表法」などを修得し、創造的な研究を行う能力を修得する。【教養・専門分野の知識・理解】【教養・専門分野、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力のスキル向上】【自己管理能力、チームワーク・リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力の態度・志向性の涵養】【統合的な学習経験と創造的思考力の養成】 研究成果を卒業論文発表会等で発表するために、優れた文章の書き方、表現法、プレゼンテーション法を修得する。【教養・専門分野の知識・理解】【教養・専門分野、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力のスキル向上】【自己管理能力、チームワーク・リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力の態度・志向性の涵養】【統合的な学習経験と創造的思考力の養成】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	この授業を受講するにあたり、3年次までに習得した教養・専門科目の予習や、関連した過去の学術論文、専門書等の調査が必要になる（最低、2時間程度）。
授業時間外学習【復習】	研究成果のまとめを再確認するため、復習が必要になる（最低、2時間程度）。
課題に対する フィードバック	研究への取組やプレゼンテーションの能力はその都度評価します。卒業論文等の成果物は採点后、返却及び解説する。
評価方法・基準	卒業論文の成果物（卒業論文本文・卒業論文概要集・プレゼンテーション資料）と卒業論文発表会等口頭発表の完成度に基づき評価する。（100点）
テキスト	テキストは使用しない。
参考書	卒業論文のテーマに沿って、先行研究の論文及び専門書を紹介する。 また、専攻演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで紹介した論文及び参考書等の資料も活用する。
備考	この授業は主体的に実施するため、研究時間ははっきり決まったものではなく、研究の進捗状況によっては夏季・冬季休暇期間中も実施する場合がある。

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2024年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		環境園芸学科		
科目名称	卒業論文					授業形態	演習		
科目コード	710096	単位数	6単位	配当学年	4	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	陳 蘭庄							ICT活 用	
授業概要	園芸生産環境専攻にかかわる国内外の研究論文を中心に輪読し、そのバックグラウンドや研究手法、研究成果について総合的に理解・習得することを目的としている。特に植物の種類には捉われず、幅広く吸収・活用できるようになるよう、目標としている。この講義の内容は、これまで本研究室で実際に行ってきた研究内容なので、これまでに得られた研究成果を発表してきた学会要旨や学術論文を交えながら、グループ討議や、実際の発表した学術論文を使って、目標をはっきりさせ、実験計画の立案から、計画の実施、結果のまとめ、論文の書き方まで、リアリティをもって教育する。研究により得られた実験結果は最終的に卒業論文としてまとめる。								
関連する科目	3年次後期までに履修したすべての科目								
授業の進め方 と方法	専攻演習I、II、IIIを通じて、卒業論文研究の進め方の習得と、適時に野菜の栽培、育種、生物工学などの技術の習得をしながら、各自のテーマに沿って、実行して研究を進める。その都度、手ほどき指導や、理論的なディスカッションを行いながら、指導し、テーマに基づいた研究を実施していく。								
授業計画 【第1回】	専攻演習を通して、文献検索方法、日本語論文、英語論文の読み方、論文の書き方、プレゼンテーションの方法などを習得する。一方、種から種への全過程をマスターできるため、実際に野菜をもって実践する。自分で植物の一生を育てることができるようにさせる。そのうえ、各自のテーマに沿って、必要な技術やノウハウを習得し、各自の研究を実施していく。								
授業計画 【第2回】	専攻演習を通して、文献検索方法、日本語論文、英語論文の読み方、論文の書き方、プレゼンテーションの方法などを習得する。一方、種から種への全過程をマスターできるため、実際に野菜をもって実践する。自分で植物の一生を育てることができるようにさせる。そのうえ、各自のテーマに沿って、必要な技術やノウハウを習得し、各自の研究を実施していく。								
授業計画 【第3回】	専攻演習を通して、文献検索方法、日本語論文、英語論文の読み方、論文の書き方、プレゼンテーションの方法などを習得する。一方、種から種への全過程をマスターできるため、実際に野菜をもって実践する。自分で植物の一生を育てることができるようにさせる。そのうえ、各自のテーマに沿って、必要な技術やノウハウを習得し、各自の研究を実施していく。								
授業計画 【第4回】	専攻演習を通して、文献検索方法、日本語論文、英語論文の読み方、論文の書き方、プレゼンテーションの方法などを習得する。一方、種から種への全過程をマスターできるため、実際に野菜をもって実践する。自分で植物の一生を育てることができるようにさせる。そのうえ、各自のテーマに沿って、必要な技術やノウハウを習得し、各自の研究を実施していく。								
授業計画 【第5回】	専攻演習を通して、文献検索方法、日本語論文、英語論文の読み方、論文の書き方、プレゼンテーションの方法などを習得する。一方、種から種への全過程をマスターできるため、実際に野菜をもって実践する。自分で植物の一生を育てることができるようにさせる。そのうえ、各自のテーマに沿って、必要な技術やノウハウを習得し、各自の研究を実施していく。								
授業計画 【第6回】	専攻演習を通して、文献検索方法、日本語論文、英語論文の読み方、論文の書き方、プレゼンテーションの方法などを習得する。一方、種から種への全過程をマスターできるため、実際に野菜をもって実践する。自分で植物の一生を育てることができるようにさせる。そのうえ、各自のテーマに沿って、必要な技術やノウハウを習得し、各自の研究を実施していく。								
授業計画 【第7回】	専攻演習を通して、文献検索方法、日本語論文、英語論文の読み方、論文の書き方、プレゼンテーションの方法などを習得する。一方、種から種への全過程をマスターできるため、実際に野菜をもって実践する。自分で植物の一生を育てることができるようにさせる。そのうえ、各自のテーマに沿って、必要な技術やノウハウを習得し、各自の研究を実施していく。								
授業計画 【第8回】	専攻演習を通して、文献検索方法、日本語論文、英語論文の読み方、論文の書き方、プレゼンテーションの方法などを習得する。一方、種から種への全過程をマスターできるため、実際に野菜をもって実践する。自分で植物の一生を育てることができるようにさせる。そのうえ、各自のテーマに沿って、必要な技術やノウハウを習得し、各自の研究を実施していく。								
授業計画 【第9回】	専攻演習を通して、文献検索方法、日本語論文、英語論文の読み方、論文の書き方、プレゼンテーションの方法などを習得する。一方、種から種への全過程をマスターできるため、実際に野菜をもって実践する。自分で植物の一生を育てることができるようにさせる。そのうえ、各自のテーマに沿って、必要な技術やノウハウを習得し、各自の研究を実施していく。								
授業計画 【第10回】	専攻演習を通して、文献検索方法、日本語論文、英語論文の読み方、論文の書き方、プレゼンテーションの方法などを習得する。一方、種から種への全過程をマスターできるため、実際に野菜をもって実践する。自分で植物の一生を育てることができるようにさせる。そのうえ、各自のテーマに沿って、必要な技術やノウハウを習得し、各自の研究を実施していく。								
授業計画 【第11回】	専攻演習を通して、文献検索方法、日本語論文、英語論文の読み方、論文の書き方、プレゼンテーションの方法などを習得する。一方、種から種への全過程をマスターできるため、実際に野菜をもって実践する。自分で植物の一生を育てることができるようにさせる。そのうえ、各自のテーマに沿って、必要な技術やノウハウを習得し、各自の研究を実施していく。								
授業計画 【第12回】	専攻演習を通して、文献検索方法、日本語論文、英語論文の読み方、論文の書き方、プレゼンテーションの方法などを習得する。一方、種から種への全過程をマスターできるため、実際に野菜をもって実践する。自分で植物の一生を育てることができるようにさせる。そのうえ、各自のテーマに沿って、必要な技術やノウハウを習得し、各自の研究を実施していく。								
授業計画 【第13回】	専攻演習を通して、文献検索方法、日本語論文、英語論文の読み方、論文の書き方、プレゼンテーションの方法などを習得する。一方、種から種への全過程をマスターできるため、実際に野菜をもって実践する。自分で植物の一生を育てることができるようにさせる。そのうえ、各自のテーマに沿って、必要な技術やノウハウを習得し、各自の研究を実施していく。								



授業計画【第34回】	専攻演習を通して、文献検索方法、日本語論文、英語論文の読み方、論文の書き方、プレゼンテーションの方法などを習得する。一方、種から種への全過程をマスターできるため、実際に野菜をもって実践する。自分で植物の一生を育てることができるようにさせる。そのうえ、各自のテーマに沿って、必要な技術やノウハウを習得し、各自の研究を実施していく。
授業計画【第35回】	専攻演習を通して、文献検索方法、日本語論文、英語論文の読み方、論文の書き方、プレゼンテーションの方法などを習得する。一方、種から種への全過程をマスターできるため、実際に野菜をもって実践する。自分で植物の一生を育てることができるようにさせる。そのうえ、各自のテーマに沿って、必要な技術やノウハウを習得し、各自の研究を実施していく。
授業計画【第36回】	専攻演習を通して、文献検索方法、日本語論文、英語論文の読み方、論文の書き方、プレゼンテーションの方法などを習得する。一方、種から種への全過程をマスターできるため、実際に野菜をもって実践する。自分で植物の一生を育てることができるようにさせる。そのうえ、各自のテーマに沿って、必要な技術やノウハウを習得し、各自の研究を実施していく。
授業計画【第37回】	専攻演習を通して、文献検索方法、日本語論文、英語論文の読み方、論文の書き方、プレゼンテーションの方法などを習得する。一方、種から種への全過程をマスターできるため、実際に野菜をもって実践する。自分で植物の一生を育てることができるようにさせる。そのうえ、各自のテーマに沿って、必要な技術やノウハウを習得し、各自の研究を実施していく。
授業計画【第38回】	専攻演習を通して、文献検索方法、日本語論文、英語論文の読み方、論文の書き方、プレゼンテーションの方法などを習得する。一方、種から種への全過程をマスターできるため、実際に野菜をもって実践する。自分で植物の一生を育てることができるようにさせる。そのうえ、各自のテーマに沿って、必要な技術やノウハウを習得し、各自の研究を実施していく。
授業計画【第39回】	専攻演習を通して、文献検索方法、日本語論文、英語論文の読み方、論文の書き方、プレゼンテーションの方法などを習得する。一方、種から種への全過程をマスターできるため、実際に野菜をもって実践する。自分で植物の一生を育てることができるようにさせる。そのうえ、各自のテーマに沿って、必要な技術やノウハウを習得し、各自の研究を実施していく。
授業計画【第40回】	専攻演習を通して、文献検索方法、日本語論文、英語論文の読み方、論文の書き方、プレゼンテーションの方法などを習得する。一方、種から種への全過程をマスターできるため、実際に野菜をもって実践する。自分で植物の一生を育てることができるようにさせる。そのうえ、各自のテーマに沿って、必要な技術やノウハウを習得し、各自の研究を実施していく。
授業計画【第41回】	専攻演習を通して、文献検索方法、日本語論文、英語論文の読み方、論文の書き方、プレゼンテーションの方法などを習得する。一方、種から種への全過程をマスターできるため、実際に野菜をもって実践する。自分で植物の一生を育てることができるようにさせる。そのうえ、各自のテーマに沿って、必要な技術やノウハウを習得し、各自の研究を実施していく。
授業計画【第42回】	専攻演習を通して、文献検索方法、日本語論文、英語論文の読み方、論文の書き方、プレゼンテーションの方法などを習得する。一方、種から種への全過程をマスターできるため、実際に野菜をもって実践する。自分で植物の一生を育てることができるようにさせる。そのうえ、各自のテーマに沿って、必要な技術やノウハウを習得し、各自の研究を実施していく。
授業計画【第43回】	専攻演習を通して、文献検索方法、日本語論文、英語論文の読み方、論文の書き方、プレゼンテーションの方法などを習得する。一方、種から種への全過程をマスターできるため、実際に野菜をもって実践する。自分で植物の一生を育てることができるようにさせる。そのうえ、各自のテーマに沿って、必要な技術やノウハウを習得し、各自の研究を実施していく。
授業計画【第44回】	専攻演習を通して、文献検索方法、日本語論文、英語論文の読み方、論文の書き方、プレゼンテーションの方法などを習得する。一方、種から種への全過程をマスターできるため、実際に野菜をもって実践する。自分で植物の一生を育てることができるようにさせる。そのうえ、各自のテーマに沿って、必要な技術やノウハウを習得し、各自の研究を実施していく。
授業計画【第45回】	専攻演習を通して、文献検索方法、日本語論文、英語論文の読み方、論文の書き方、プレゼンテーションの方法などを習得する。一方、種から種への全過程をマスターできるため、実際に野菜をもって実践する。自分で植物の一生を育てることができるようにさせる。そのうえ、各自のテーマに沿って、必要な技術やノウハウを習得し、各自の研究を実施していく。
授業の到達目標	卒業論文研究の過程で基本的な実験の技術、論理的思考や問題解決能力のトレーニングを行う。【職業知識・技能の育成】ディプロマポリシー中の科学的思考や技術を習得する目標を達成すること。【自己管理能力・生涯学習力】
学位授与の方針(DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)
授業時間外学習【予習】	各自の卒業論文研究テーマに関連する文献の情報収集と精読に努めること。
授業時間外学習【復習】	各自の卒業論文研究テーマに関連する文献の情報収集と精読に努めること。
課題に対するフィードバック	卒業論文研究に出てきた問題などを随時に発見し、解決策と一緒にディスカッションしながら研究を進める。
評価方法・基準	研究態度、姿勢、論文発表会および提出された卒業論文に基づき評価を行う。
テキスト	指定しない。
参考書	指定しない。
備考	

# Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2024年度	開講キャンパス	開講キャンパス	都城キャンパス	都城キャンパス	開設学科	開設学科	環境園芸学科			
科目名称	卒業論文					授業形態	実験				
科目コード	710096	単位数	6単位	配当学年	4	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○	ICT活 用	○
担当教員名	山口 健一								ICT活 用	○	
授業概要	‘環境保全園芸学’に関する実験科学的な研究テーマを定め、その背景、実験手順・内容およびデータ解析の方法について習得することを目的とする。										
関連する科目	専攻演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ										
授業の進め方 と方法	受講生と教員が合意した卒業論文の研究課題について、受講生が自ら能動的に情報を収集しながら実験・解析手法を習得する。卒業前に卒業論文概要ならびに卒業論文を完成させ、指導教員に提出する。 本授業では、受講生が指導教員とディスカッションしながら問題解決型の体験学習とし、適宜プレゼンテーションを取り入れて行う。										
授業計画 【第1回】	01. 授業の進め方 受講生の課題を決め、研究手法について学ぶ。										
授業計画 【第2回】	02. 授業の進め方 受講生の課題を決め、研究手法について学ぶ。										
授業計画 【第3回】	03. 共通基礎手法の習得〔1〕 野菜園芸植物の取り扱いについて学ぶ。										
授業計画 【第4回】	04. 共通基礎手法の習得〔1〕 野菜園芸植物の取り扱いについて学ぶ。										
授業計画 【第5回】	05. 共通基礎手法の習得〔2〕 果樹園芸植物の取り扱いについて学ぶ。										
授業計画 【第6回】	06. 共通基礎手法の習得〔2〕 果樹園芸植物の取り扱いについて学ぶ。										
授業計画 【第7回】	07. 共通基礎手法の習得〔3〕 花き園芸植物の取り扱いについて学ぶ。										
授業計画 【第8回】	08. 共通基礎手法の習得〔3〕 花き園芸植物の取り扱いについて学ぶ。										
授業計画 【第9回】	09. 共通基礎手法の習得〔4〕 野草・雑草植物の取り扱いについて学ぶ。										
授業計画 【第10回】	10. 共通基礎手法の習得〔4〕 野草・雑草植物の取り扱いについて学ぶ。										
授業計画 【第11回】	11. 共通基礎手法の習得〔5〕 真菌・酵母類の取り扱いについて学ぶ。										
授業計画 【第12回】	12. 共通基礎手法の習得〔5〕 真菌・酵母類の取り扱いについて学ぶ。										
授業計画 【第13回】	13. 共通基礎手法の習得〔6〕 細菌・放線菌類の取り扱いについて学ぶ。										
授業計画 【第14回】	14. 共通基礎手法の習得〔6〕 細菌・放線菌類の取り扱いについて学ぶ。										
授業計画 【第15回】	15. 研究中間報告 研究の発表手法について学ぶ。										
授業計画 【第16回】	16. 研究中間報告 研究の発表手法について学ぶ。										
授業計画 【第17回】	17. 個別高度手法の習得〔1〕 微生物の分離・純粋培養技術について学ぶ。										
授業計画 【第18回】	18. 個別高度手法の習得〔1〕 微生物の分離・純粋培養技術について学ぶ。										
授業計画 【第19回】	19. 個別高度手法の習得〔2〕 微生物のベンチスケール培養技術について学ぶ。										
授業計画 【第20回】	20. 個別高度手法の習得〔2〕 微生物のベンチスケール培養技術について学ぶ。										
授業計画 【第21回】	21. 個別高度手法の習得〔3〕 微生物の同定技術について学ぶ。										
授業計画 【第22回】	22. 個別高度手法の習得〔3〕 微生物の同定技術について学ぶ。										

授業計画【第23回】	23. 論文作成ガイダンス 実験科学系卒業論文の作成手順について学ぶ。
授業計画【第24回】	24. 論文作成ガイダンス 実験科学系卒業論文の作成手順について学ぶ。
授業計画【第25回】	25. 卒業論文の作成 自己研究の卒論概要を纏め、卒業論文を作成する。
授業計画【第26回】	26. 卒業論文の作成 自己研究の卒論概要を纏め、卒業論文を作成する。
授業計画【第27回】	27. 卒論発表の準備 卒論研究発表用の資料を作成する。
授業計画【第28回】	28. 卒論発表の準備 卒論研究発表用の資料を作成する。
授業計画【第29回】	29. 卒業論文発表 卒論研究の発表手法について学ぶ。
授業計画【第30回】	30. 卒業論文発表 卒論研究の発表手法について学ぶ。
授業の到達目標	慣行の園芸生産（蔬菜・果樹・花卉）の環境上の問題（農業・化学肥料の多用、家畜排泄物に起因する環境汚染、資材のリサイクル等）を理解するとともに、それを解析及び解決する手法を習得する。
学位授与の方針（DP）との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)
授業時間外学習【予習】	次回の課題内容を予めアナウンスするので、各自で予習を行う。（30分程度）
授業時間外学習【復習】	授業で学習した各回の課題について受講生各自で毎回復習する。（1時間程度） なお、不明な学習箇所は、必ず指導教員に質問して自らの学びを深める。
課題に対するフィードバック	授業で出た質問については、補足資料等を付して詳細回答する。なお、共通の質問に対しては回答を含めて全受講生で共有する。
評価方法・基準	研究手法の習熟度（50点）と提出された論文（50点）で評価する。
テキスト	卒業論文の課題テーマに応じて、適宜実験書等を知らせる。
参考書	授業内容に関する資料や論文、参考となる図書を適宜紹介する。
備考	

# Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2024年度	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	環境園芸学科				
科目名称	卒業論文					授業形態	演習		
科目コード	710096	単位数	6単位	配当学年	4	実務経験教員	○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	菅野 善明							ICT活 用	○
授業概要	<p>植物病理学に関連する科目や植物バイオ・育種専攻の演習および実験、研究室で学ぶ専攻演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学んだ知識や技術を基に、実際に現在、植物病理学分野で問題となっている病害の原因病原体の分離・同定や植物病原体の増殖を抑制する拮抗微生物の探索を行い、実際に圃場レベルでの病害防除効果を検証する。これらを進めるため、関連する文献を自分で検索し情報収集を行い、より正確で効果的な分離・同定についての実験計画を立案し、実験に取り組む。実験実施に当たり、それぞれの実験方法を理解し、あらかじめ実験を成立させるための計画・準備・実施できる能力を習得する。また、実験によって得られたデータの取りまとめ、解釈、判断し結論を導き出す能力、考察する能力、論文としてまとめる能力を養い身に付ける。</p>								
関連する科目	微生物学、植物病理学、植物バイオ・育種演習、植物バイオ・育種実験、総合防除論および専攻演習Ⅰを習得していることが望ましい。専攻演習Ⅱと専攻演習Ⅲを履修することが望ましい。								
授業の進め方と方法	卒業論文のテーマの背景・計画をこれまでの知見を精査する。実験を行うにあたり、実験を行う前に目的、方法、材料、結果のまとめ方を相互に確認する。結果についても相互に確認し考察を深めるとともに、次に必要な実験計画を立案する。								
授業計画【第1回】	情報収集 現在、問題となっている植物病害について情報収集を行う。								
授業計画【第2回】	情報収集 現在、問題となっている植物病害について情報収集を行う。								
授業計画【第3回】	情報収集 現在、問題となっている植物病害について情報収集を行う。								
授業計画【第4回】	情報収集 現在、問題となっている植物病害について情報収集を行う。								
授業計画【第5回】	研究テーマの選定 収集した情報の中で関心のあるテーマを選定する。								
授業計画【第6回】	研究テーマの選定 収集した情報の中で関心のあるテーマを選定する。								
授業計画【第7回】	研究テーマの選定 収集した情報の中で関心のあるテーマを選定する。								
授業計画【第8回】	研究テーマの選定 収集した情報の中で関心のあるテーマを選定する。								
授業計画【第9回】	実験計画 選定したテーマを実施・遂行するための実験計画を立案する。								
授業計画【第10回】	実験計画 選定したテーマを実施・遂行するための実験計画を立案する。								
授業計画【第11回】	実験計画 選定したテーマを実施・遂行するための実験計画を立案する。								
授業計画【第12回】	実験計画 選定したテーマを実施・遂行するための実験計画を立案する。								
授業計画【第13回】	実験の実施 計画に基づき実験に取り組む。								
授業計画【第14回】	実験の実施 計画に基づき実験に取り組む。								
授業計画【第15回】	実験の実施 計画に基づき実験に取り組む。								
授業計画【第16回】	実験の実施 計画に基づき実験に取り組む。								
授業計画【第17回】	実験の実施 計画に基づき実験に取り組む。								
授業計画【第18回】	実験の実施 計画に基づき実験に取り組む。								
授業計画【第19回】	実験の実施 計画に基づき実験に取り組む。								
授業計画【第20回】	実験の実施 計画に基づき実験に取り組む。								
授業計画【第21回】	実験の実施 計画に基づき実験に取り組む。								
授業計画【第22回】	実験の実施 計画に基づき実験に取り組む。								
授業計画【第23回】	実験の実施 計画に基づき実験に取り組む。								
授業計画【第24回】	実験の実施 計画に基づき実験に取り組む。								
授業計画【第25回】	実験の実施 計画に基づき実験に取り組む。								
授業計画【第26回】	実験の実施 計画に基づき実験に取り組む。								
授業計画【第27回】	実験の実施 計画に基づき実験に取り組む。								

授業計画【第28回】	実験の実施 計画に基づき実験に取り組む。
授業計画【第29回】	実験の実施 計画に基づき実験に取り組む。
授業計画【第30回】	実験の実施 計画に基づき実験に取り組む。
授業計画【第31回】	実験結果の分析と見直し 実施した実験の結果の解析と必要な次の実験を計画する。
授業計画【第32回】	実験結果の分析と見直し 実施した実験の結果の解析と必要な次の実験を計画する。
授業計画【第33回】	実験結果の分析と見直し 実施した実験の結果の解析と必要な次の実験を計画する。
授業計画【第34回】	実験結果の分析と見直し 実施した実験の結果の解析と必要な次の実験を計画する。
授業計画【第35回】	実験結果の分析と見直し 実施した実験の結果の解析と必要な次の実験を計画する。
授業計画【第36回】	検証実験 新たに計画した実験を実施する。
授業計画【第37回】	検証実験 新たに計画した実験を実施する。
授業計画【第38回】	検証実験 新たに計画した実験を実施する。
授業計画【第39回】	検証実験 新たに計画した実験を実施する。
授業計画【第40回】	検証実験 新たに計画した実験を実施する。
授業計画【第41回】	卒業論文作成 行った実験結果をとりまとめ、卒業論文を完成する。
授業計画【第42回】	卒業論文作成 行った実験結果をとりまとめ、卒業論文を完成する。
授業計画【第43回】	卒業論文作成 行った実験結果をとりまとめ、卒業論文を完成する。
授業計画【第44回】	卒業論文作成 行った実験結果をとりまとめ、卒業論文を完成する。
授業計画【第45回】	卒業論文作成 行った実験結果をとりまとめ、卒業論文を完成する。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業論文を通して、情報収集、収集情報の整理による研究課題設定能力を高める。</li> <li>・自律的に学ぶ素養を習得する。</li> <li>・卒業論文作成を通して、文章能力・図や表の構成能力を高める。</li> <li>・報告・発表会を通して、プレゼンテーション能力を高める。</li> </ul>
学位授与の方針(DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)
授業時間外学習【予習】	卒業論文（研究）のテーマを遂行するために必要な情報（論文）を収集し、精読する（1時間/日）。
授業時間外学習【復習】	行った実験についてはその結果から何が言えるかを考察し、次の目的を明確にし実験計画を立てる（1時間）。
課題に対するフィードバック	卒業論文のテーマの計画・実験の実施、結果の解析および考察はその都度学生と議論し、実験を行うために必要な考え方を習得する。
評価方法・基準	卒業論文への取り組み方、提出卒業論文の内容、発表等を総合的に評価する。（100点）
テキスト	必要に応じ、作成した資料を配布する。
参考書	新版 論文の教室 レポートから卒論まで（NHKブックス） 理科系の作文技術（中公新書）
備考	